

戦後80年、被爆80年に寄せて 第一部のステージに登壇していただく皆さん

◇宮城のうたごえの皆さん

～平和への願いを歌いつづけて～



2025.8.9『平和の波』行動で演奏するメンバー

正式名称は「宮城のうたごえ協議会」
「うたごえは平和の力・生きる力」「歌は闘いととともに」を合言葉に、県内の合唱サークルや個人が加盟している協議会。また、「うたごえ9条の会」として宮城県内九条の会連絡会とともに活動している。「語り継ぐ平和と希望の音楽会」の開催を続け、合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」や、故小林康浩作曲の合唱組曲「おばあちゃんから孫たちへ」「おじいちゃんから孫たちへ」など、うたごえを通して、戦争体験や平和への願いを伝える楽曲を演奏し続けている。

◇木村緋紗子さん ノーベル平和賞までの歩みとこれから



1937年広島市生まれ 国民学校2年生8歳の時に被爆。開業医である父親、祖父など親族8名を亡くす。核兵器廃絶運動に関わり、現在宮城県原爆被害者の会会長。および核兵器廃絶ネットワークみやぎの代表。毎年原爆死没者追悼式典や原爆パネル展を開催、県内各地で被爆証言活動や被爆者相談事業を行う。日本被団協の代表理事として、2024年オスロでのノーベル平和賞授賞式に被爆2世であるご子息と共に参加。現在その報告を県内外から依頼され忙しい毎日を過ごしております。

◇星に願いを～「仙台平和七夕」に参加する中高校生の皆さん～

「核廃絶の訴えを未来にリレーする」
田中熙巳さん講演会開催に取り組んで



200万人もの人が訪れる仙台七夕、市民の手により50年間続けられてきた「平和を祈る七夕市民の会」の皆さんは、「仙台平和七夕」として、国内外から届く折り鶴でつくる吹き流しやプレゼント用のレイを作成し、伝統ある星祭りに参加してきました。尚絅学院中高の生徒さんたちは、この活動に45年の長きにわたり参加を続けてきました。

50年の節目の年に当たり、7月19日「平和を祈る七夕市民の会」と尚絅学院との共催により、昨年ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の代表委員 田中熙巳さんを招き「核廃絶の訴えを未来の世代にリレーする」と題して講演会を開催。この企画運営の主体となった尚絅学院中高宗教部の皆さんにスピーチしていただきます。

「憲法9条を守り生かす宮城のつどい」は皆さまからの賛同金とカンパにより開催しております。お支払いいただければ幸いです。

賛同金 個人 1,000円（一口） 団体 3,000円（一口） 郵便振替 22608 8 89149 加入者 みやぎ憲法九条の会